

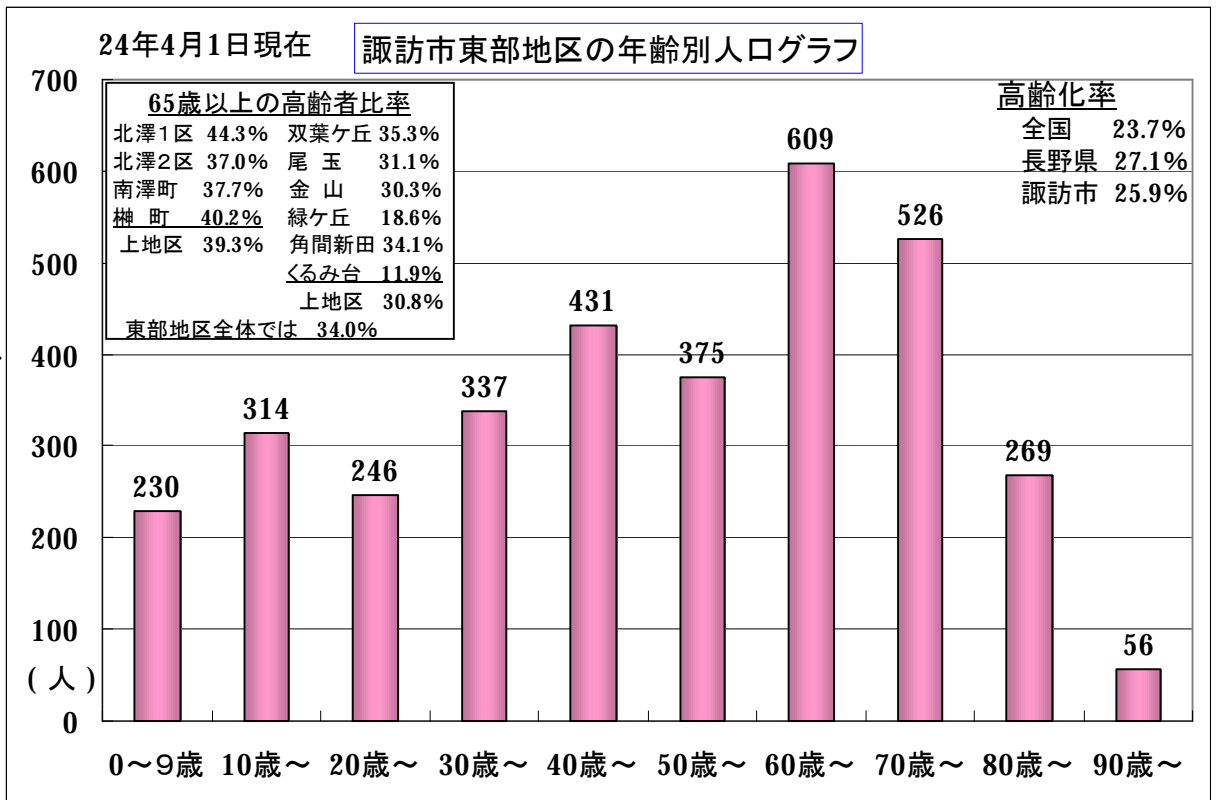
# 東部地区の激しい高齢化と人口減少

日本社会では高齢化の進行と人口減少が大きな問題になっています。私たちの住んでいる東部地区では全国に先駆けて激しい高齢化と人口減少が進んでいます。その実態を見すえながら、住みよい、暮らしやすい、安全な地域づくりをすすめることが私たち住民の課題です。(館長)

東部地区  
公民館だより

号外平成二十四年八月一日  
発行 東部地区公民館  
編集人 矢島義恭 恭

## 1 高い高齢化率の東部地区

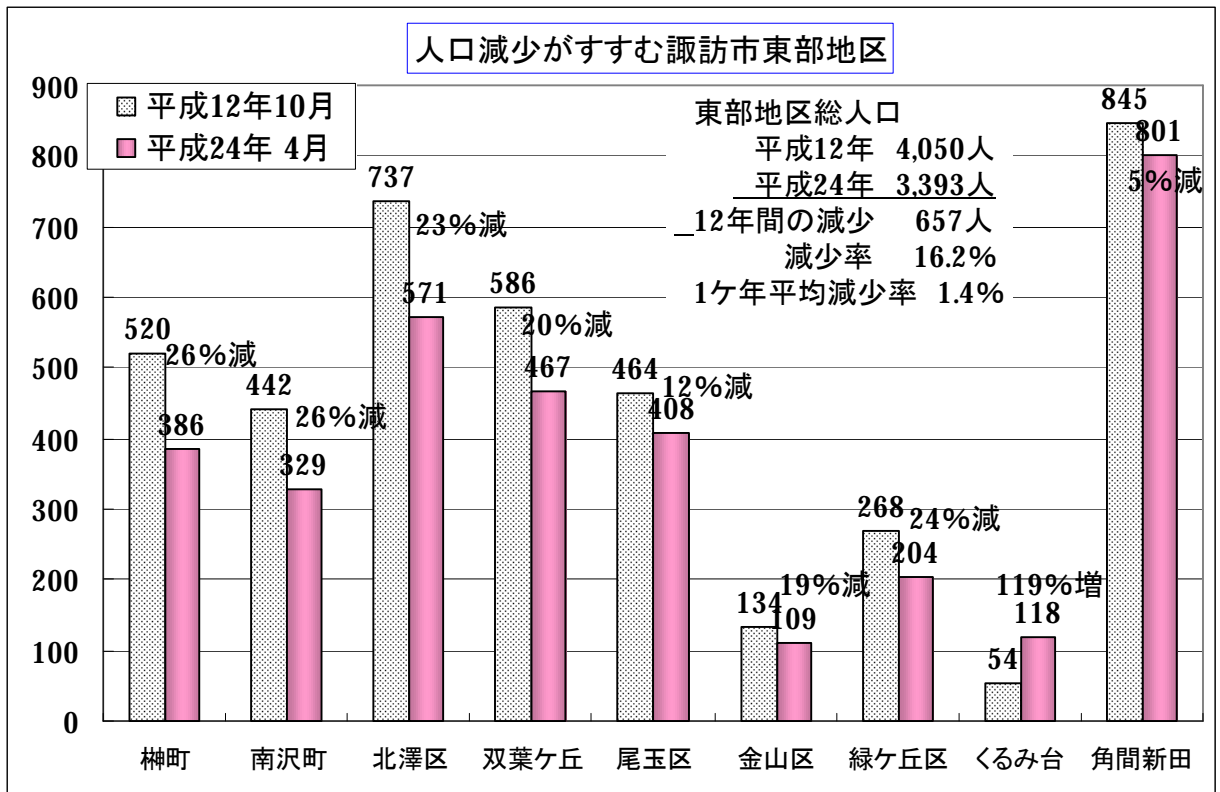


### 東部地区の高齢化の特徴

- ① 東部地区の高齢化率34%は、全国の23.7%や諏訪市の25.9%に較べて著しく高い比率です。3人に一人が65歳以上の高齢者ということです。
- ② 東部地区内でも、古い町区ではとりわけ高齢化が進んでいます。アパートなどがあれば比率が下がるものの、40%前後という極めて高い高齢化率になっています。
- ③ 人口構成の中心で最も多いのは60歳代や70歳代の人達で、若年層はもとより40歳代や50歳代の人達が少ないのが特徴です。10年後には高齢者は更に増え、グラフの棒は右に一つずつ移動するため、地域を支える50歳代や60歳代の人口が激減することになります。自治会の運営などに困難さの増すことが予想されます。
- ④ 高齢者が多いので亡くなる方も多数出ます、他方出産期の30歳前後の女性は少ないので子どもの数は今より減少し、これまで続けてきた人口減少が一層進むこととなります。
- ⑤ 高齢者の多くが、夫婦二人だけや一人で暮らしています。

- ⑥ 心身の衰えにより、諏訪地域では65歳以上の高齢者の約16%が介護保険の要介護認定者ですが、75歳以上ですと約27%と4人に一人が要介護者で、そのうち約40%は認知症だと言われています。特養などの介護入所施設は要介護3以上の重度者でなければ利用は困難です。住み慣れた地域や自宅で暮らし続けられるよう、「お互いさま」と言い合いながらの近隣における支えあいや助け合いが必要になっています。

## 2 憂慮される東部地区の人口減少



### 最近12年間における東部地区の人口減少の特徴

- ① 最近12年間で、東部地区全体の人口は4,050人から3,393人へと657人、16.2%という大幅な減少がみられました。平成2年の人口は4,650人でしたから、22年間に1,257人、27%もの大きな減少があり、この地区では人口が減少し続けています。
- ② この12年間の1ヶ年平均減少率は1.4%でしたので、このままでゆくと10年後には14%、475人減少して2,918人と総人口は3,000人を割ることになります。
- ③ 町区別にみると、北澤区、南澤区、榊町のような戦前から市街地の一面をしめていた町区は、23～26%という高い減少率で12年間に人口は4分の3に減少しました。
- ④ 戦後生まれた住宅団地の双葉ヶ丘区、尾玉区、金山区なども人口減少に入っており、12～20%の人口減少が見られます。
- ⑤ 角間新田区には県営住宅団地があり、近接するくるみ台区は県営分譲住宅団地として子育て世代の新築移住が進んでいます。従ってこの地域では人口はほぼ横ばい状態です。
- ⑥ 東部地区全体として急速な人口減少がすすみ、空き家も増加し続けています。子育て世代の移住をよびこまない限り、少子高齢化のなかで人口減少が一層すすむこととなります。地域として対策を考えなければならない時期にきています。

24年4月1日現在

諏訪市東部地区の各町区の高齢化

